仏法領　ぶっぽうりょう　第五十九号

念信寺の使命

豊かな自然、歴史をふまえ、
生と死を見わたし、未来が開けるお寺
喜びをもって、生き生きと暮らせる
故郷（ふるさと）を創（つく）ります。

日本全体の人口は2030（平成42）年には2千万人減少すると言われています。みやこ町の人口も1万6千人を切ることが予想されています。平成25年のみやこ町の人口は2万1，450人ですが、平成18年の三町合併後7年間で既に2千人が減少しています。

みやこ町の65歳以上が人口に占める割合も2013（平成25）年現在の32％が2030年には41％になると予測される一方で、交付金・税収も減少し福祉予算も少なくなり、人手の面でも足りなくなるそうです。

最初から数字を出して恐縮でしたが、つまり過疎・高齢化が急速に進むのに公的サービスも現状維持は難しくなるということです。地方の経済情勢も厳しく、家観念が希薄になり、共同体も弱体化して、高齢者が孤立化することも予想されます。

今後、孤独感を抱き、将来的見通しや生きがいを喪失する人も増えてくるのではないかと思われます。

このような外部状況があるなかで、お寺は積極的に何をなすべきでしょうか。現状に甘んじ何もしなければ、長期的に凋落し、お寺の活動も衰弱し境内建物の維持さえ難しくなっていくでしょう。

念信寺は地元上高屋地区を中心に犀川、城井谷に数戸から十数戸単位でまとまり、近隣の市町村にまたがっていて、江戸時代からの門徒も多く伝統的な結びつきは未だ強いものがあります。

お寺本来の価値を再認識し、将来的なビジョン（展望・構想）をもって門信徒と共に力を合わせて進めば、果たすべき役割は多くあると考えています。

お寺のビジョン（展望）として住職は次のように考えています。

1．門信徒、地域住民が人生のライフサイクル（生老病死）を安心して暮らせる手助けができるお寺の体制をつくる。

2．公開されたお寺作り。皆で支え合う組織づくりを通して、お寺を共同体として意識できるようになる。

具体的には5年後を目途に、次のように実行したいと考えています。

①墓園事業

門信徒用の既存の第1墓園に加え、誰でも入れる第2墓園を今年春彼岸に募集、第3墓園を永代祭祀墓として5年後募集を目標にする（一人用の永代管理墓は第1墓園に既存）。墓園の委員会が既にあるので、第2、第3墓園に関しては公開された形で会員組織にして、寺壇関係が新しい形で模索できれば。自然やお寺の歴史、佇まい、姿勢に価値を見出してもらえる方に加入していただきたい（行橋、北九州からの距離は気分を変えるために逆に長所になる）。口コミの力は大きいので、ご協力をお願いします。

②世話人組織、聞法会等の充実

世話人の居ない地区の門徒さんにもお寺に係わっていただき、同朋会の充実、若者向けイベント、終活、介護などの講座、法座の充実など。男性部会、女性部会のようなものができないか。高齢者サポートを委員会にて検討中。聞法の充実、いのちの故郷が開けることがお寺本来の活動です。また可能な方はお斎、その他加勢などに加わっていただくとありがたいです。

③広報と社会的取組

ホームページの作成、寺報の充実（昨年より編集委員会体制）、「放射能から子どもを守る会」への継続的取組、その他。

④財務

住職等の経済的基盤を保証することで、会計を明確化、透明化し、寺院運営の合理的根拠を示し、信頼関係を構築したい。お布施はお寺の会計に入ります。住職はお寺の会計から給料をいただいていますが、各種手当等の規定もなく、できるだけお寺に残る形にしているために個人的には不安定です。またお寺の会計は、本山納金、納骨堂、墓園、寄付金等々に別れ管理を別にしていて把握しづらいので、少しづつ管理しやすい形にしていっています。

門信徒、地域住民の課題に向き合い、安心や信頼を提供し、地域に求められるお寺として発展していければと思います。そのための取組をさらに開発していかなければなりません。皆さんの智慧と力のご協力をお願いします。

ひと

念信寺だより第五十八号でお知らせいたしましたように、念信寺有縁の方々を紹介してまいります。（取材・編集委員阿部正紀、尾形紘光／記事、阿部）

一

のシリーズで最初に登場していただくのは田川郡赤村に在住のＳＨさんです。

赤村は広い区域ですが、Ｓさんのお宅は平成筑豊鉄道油須原駅から車で５分くらいの所です。

一月二十八日訪問時、Ｓさんはちょうど農業用ハウスの中で作業中。その作業場でお話を伺いました。

当日は大寒の中日でしたが、幸運にも晴天で、面談中寒さを感じませんでした。

Ｓさんは昭和十八年生まれで本年七十才とのこと。まだまだ若い。精悍そのものにお見受けしました。後にご院家さんに聞いたところ、Ｓさんは空手の猛者とのこと。さもありなんでしょう。

現在は田圃を一町ほど耕作しておられるが、減反政策のため三十％は米を作れないので、三反は転換作物を作っているとのこと。作物は赤村、農協の指導により長ナスを栽培しているとのこと。近所の人たちもナスを作っているので、収穫期に一か所の市場に出すのはうまくない。Ｓさんは直方の方に出荷しているとのこと。

子供さんがいらっしゃらないのでゆくゆくはご兄弟の方に農業を継いでもらうおつもりだそうです。

Ｓさんの趣味は、なんとも優雅で、謡曲（うたい）だそうです。

謡曲は声を出すものだから腕前ではなく、声前とでもいうのでしょうか、達成度も相当のものらしく、郡のレベルではなく、県のレベルで年に数回は福岡で発表会にご出席なさるとのとでした。

これからも仕事、趣味に是非お元気で、頑張って頂きたいと切に願うものであります。

Ｓ Ｈさんはいつも新米と餅米を御仏前に供えてくださいます。一途で一本気、生き方にぶれがない侍のような方だと思います。

（住職）

来て見ちょくれ！

お寺の駐車場の隣の○氏宅では、今年もみごとなサゲモンです。お参りの際はぜひ寄って見てくださいとのこと。4月3日までは下げているらしいです。

お寺でイベント！

未来を考える会

昨年の十二月二十日、「未来を考える会」主催イベントで、上高屋地区に入居や転入してきた方々を迎える「歓迎する会」を開催しました。新しい世帯には小さなお子さんもおり、これから上高屋区住民との交流や行事に、少しでも親しんでいただくために、親子・家族連れのイベントを企画しました。

村上住職に念信寺を開放していただき、普段見れない「お寺の不思議」、「お寺のひみつ」などを子ども目線で、丁寧に説明していただきました。

参加した子どもたちは、目をまん丸にさせて和蝋燭（わろうそく）の火の消し体験や、お香の種類によって香りが全然違うことに不思議そうにしていました。そして、本堂の裏側を案内されると、仏像が怖くて泣き出す幼い子どももいました。

その後は、お菓子を食べながら自己紹介や歌を歌い、イベントのクライマックスの「鐘撞体験（かねつきたいけん）」に移りました。夕刻に合わせて、一人一人楽しそうに鐘（かね）を突く子どもたち。鐘を打つ子どもの体格・性格によって、鐘の音色は全く違うものです。住民の中には、「今日は、いつもの鐘の音と違うなあ。」とお気付きの方もいらしたのではないでしょうか。

「未来を考える会」は、上高屋の未来を描き、個人・所属・団体の垣根を越えて、自由な発想の元に上高屋住民が心豊かに生活し交流を深めるために、様々なイベント企画する有志の会です。これからも、念信寺のお力添えをいただきながら、地域が出来ることを考えて参ります。次回の企画もご期待ください。

大迫光浩

次に、SF さんをご紹介いたします。

SF さん宅は、SH さん宅のお隣。両 S 家はご一族で、F さん宅が本家に当たるそうです。

F さんは、昨年十月に体調を少し崩され、現在入院治療中だそうです。快方に向かっているので間もなくとの事でした。

奥さんは、ウィークデイは毎日介護施設に通っておられるとのことで、ご両人にはお会いできませんでした。

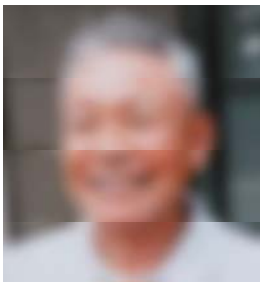
お話を伺ったのは、F さんのご長男の奥さんでした。

現在、ご長男が隣に住まわれ、その奥さんが熱き思いをもって、日々 F さん宅のお世話をなさっているとのこと。

F さんは現在八十七才だそうですので、昭和２年頃のお生まれと思われます。

若い頃は田川の〇〇鉱山に勤務し、定年まで務められたそうです。自宅の赤村から田川までバイクで通勤されていたそうです。定年後は　選挙管理委員会に勤め、選管委員長を二十五年間も務められたそうです。小泉総理大臣の時に、地方自治への貢献大として藍綬褒章を受けておられます。なかなかないことです。素晴らしい立派なことだと思います。

趣味はといえば、仕事が最大の趣味かと思えるほどで、ご家族は正月の三ケ日を休ませるのにも苦労なさったそうで、SH さんと同様に長ナスを作られているとのこと。



その他にもいろいろなことに積極的で、有機農業などにも取り組んでおられるとのこと。

犀川と赤村は離れていて地元の門徒さん達のようにすぐにはお寺の手伝いも出来ず、誠に申し訳ないとの伝言もいただきました。

念信寺さんも、やはりこういう心持の方々に支えられているのだなと感じ入りました。

F さんのご長男は　Y さんといい、事情があって、祖母方の姓を継いでおられるとのこと。ご院家さんは、若い奥さんのお話を聞かれたら良いですよとのことでしたが、まさにその通りでした。

熱く語り、時には声を詰まらせるほどの語り口でした。

残念ながら、奥さんは、私は念信寺門徒ではないので、写真は勘弁して下さいとのことでしたが、有縁のこのような思いをお持ちの方がいる限り、S 家も Y 家も大丈夫だと感じさせられました。

誠に残念ながら、SF氏　は2月21日　ご命終なさいました。大変家族思いで、奥様のことを念じておられる様子が態度や言葉の端々に感じられ、真摯な生き方に感動を覚えたものです。またお兄様の御法儀あふれる葬儀のご挨拶、お金や名誉でない生き方を尊んだ生涯とのお言葉にも共感し感銘を受けました。(住職)

二

月四日、京都郡下伊良原・岩屋河内地区の　O さん宅を訪問しました。そこで　K さんと O さんの奥さんからお話を伺いました。

K さんは大正十年のお生まれで、今年九十四才だそうです。

この文を書いている時に、偶然にもテレビに北海道の九十二才の女性が映っていました。五十年前に駐日大使ケネディさんに雛人形を贈った人だそうです。

ところが顔に生気も感じられず、言葉もはっきりせず、話しぶりも突々としていて、本当にご老人という感じでした。

K さんは、この女性よりご高齢なのに健康度合いがまるきり違っています。顔の艶はよく、声もはっきり、話振りもまったくよどみが感じられません。驚くほどに若く感じられます。現在でも自分が食べる野菜類は自分で作っているとのことです。

ご高齢でも元気で居られる秘訣はなんですかとお訊ねしたら、余りくよくよしないことかも知れないとのこと。それと若い頃から農業、林業に携わり自然に足腰が鍛えられ、エネルギーが蓄えられ、それが現在の元気の素になっているに違いないと拝察いたしました。

K さんが生まれたのは、国道四百九十六号を五キロ下った木井馬場とのこと。岩屋河内に嫁入りされてから七十二年くらい経つそうです。

子供さんがいらっしゃらないので、現在はお一人住まい。近くのコミュニティーセンター内にデイサービス施設がありそこに通っているとのこと。

O さんは、昭和三十七年生まれで、現在五十三才。バリバリの現役です。そこで奥さんにお伺いしました。お名前は〇〇子さんとおっしゃられます。ご主人は節丸の方まで毎日通勤なさっているとのこと。子供さんはもう独立されて行橋にお住まいとのこと。

念信寺さんの岩屋地区の世話役は O さん方が代々務められて、奥さんは年に三、四回は念信寺での世話人会に出席しておられるとのこと。

お二人の話をうかがっていると、この地区では老若相寄り添って生きていかれている様子がよく分かります。感動的ですらあります。

現代日本の都会地ではほとんど見られない、日本の原風景ではないかと深く感じ入るものでした。

K さんのご主人　〇さん(今年七回忌)は九十過ぎまで田んぼをなさり、〇さんが入院なさってから K さんは毎日下のバス停まで数キロ歩いて何年も病院に通われました。家の周りはいつも片付いていて、その生き方には頭が下がります。また岩屋河内には　YF　さんもおられ、小 OK さんもおられました。その前の世代からの懐かしさ温かさをいつも感じております。(住職)

春のお彼岸法要ご案内

まだ寒い日が続いております。皆さまいかがお過ごしですか？春のお彼岸の法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時

日時		
三月二十日（月）	藤谷先生	午後一時半～三時半
	ピアノミニコンサート	夜七時～八時半
三月二十一日（火）	藤谷先生	
四月一日（水）	林先生	
	藤谷先生	

●講師

藤谷知道先生（宇佐　勝福寺住職）
教区は言うに及ばず教団の枠を超えて、時代を生きる宗教者として着実な活動をなさっておられます。

林　義淳先生（小倉北区　宝樹寺住職）
林先生は北九州市でひきこもり支援のフリースペースを主催し、ＮＰＯ法人ステップの理事をしておられます。社会的活動を宗教者の視点から語っていただこうと思っています。

●ピアノ

山口芳弘さん　豊前市
童謡、唱歌、スクリーンミュージック、オリジナル作品など。即興演奏も大変得意です。

世話人会議
三月三十日十二時半より　念信寺お内仏の間にて

墓園総会
三月三十一日午後四時より　念信寺お内仏の間にて

墓園総会は出席者が大変少ないのですが、総会前に何度か役員会議を開いています。墓園を維持するためにそれなりの労力を使っています。皆さんの管理料はできるだけ使わず、安心の墓地を相続するための努力です。お金では済まないものを感じて協力して運営しています。その力はいのちの歴史の重みです。法座はそのことを学ぶ場です。
どうぞ、ご法座にも足をお運びください。

支援活動：古本勧進（ふるほんかんじん）

不要になった書籍を東北被災地に寄附しませんか？
本棚に収まりきらなくなった書籍、引越しや大掃除の際に出る大量の書籍の処分にお悩みになった経験はありませんか？
古本勧進（ふるほんかんじん）は、全国各地のお寺が起点になり、皆さんのご自宅に眠る書籍を集めて、様々な活動を支援するプロジェクトです。
お寺にお持ちくださるか、連絡ください。引き取りに参ります。

しくみは？
お寺で集めて、一括して業者（バリューブックス）に送ります。買い取り金額は全額、震災で被災した子どもたちの自立、学習支援に役立てるための活動である「ふくしまインドアパーク」と「チャンス・フォー・チルドレン」に寄付されます。
これが元企画の『彼岸寺』のサイトです。
http://www.higan.net/news/2014/11/kanjin-4th.html

念信寺年間法要予定

（二〇一五年）

●皆作法要
六月二十八(日)～三十(火)日
講師　糸島　海徳寺　松月博宣　師

●秋彼岸法要
九月未予定
講師　未定

●ご正忌・報恩講
十一月二十(金)～二十四(火)日
講師　未定

※念信寺同朋会　毎月行っています。
多くの方のご参加をお待ちしています。
四月六日（月）　午後一時半より

第2墓園完成、第1墓園の隣

仏教婦人会

犀川地区全体の仏教婦人会は二十八日講と共同で毎月例会を行っています。
今月は三月十六日（月）午後一時半下本庄区の引受です。

●鐙畑地区婦人会追弔会
三月二日（昼・夜）、三日（朝・昼）の日程で今年の法話は念信寺住職の当番でした。自分たちで食事の準備もなさり、今年も大変心のこもった追弔会でした。お世話になりました。

●上高屋地区仏教婦人会追弔会
三月十五日（日）　午前　三部経読誦　午後法話
ご苦労様です。いのちが「私のいのち」でなく、「私たち」共々に生かされているのだという実感が、この追弔会を相続してきた原動力だと思います。

2月18日上高屋引受

後記

▼紙面が新しくなりました。よい寺報にしたいと思います。皆様のご意見をお聞かせください。